

平成 21 年度第 1 回京都大学防災研究所自然災害研究協議会 議事録

日 時：平成 21 年 11 月 25 日（水）午後 4 時 30 分 - 午後 6 時 30 分

場 所：キャンパスプラザ京都 4 階 第 4 講義室

出席者：森田，丸井（代理，古谷），加賀屋（代理，高井），海野，桑野，矢田部，守田，間瀬，吉田，藤田，盛川，西上，藤吉，牛山，真木（代理，井口），牧，オブザーバー（岡田，南山，井口（代理出席兼））

配布冊子等

- ・自然災害研究協議会パンフレット
- ・京都大学防災研究所概要（和文）
- ・京都大学防災研究所概要（英文）
- ・DPR I Newsletter
- ・第 45 回自然災害科学総合シンポジウム講演論文集

1．議長が選出されるまで，総務の間瀬が司会を務めた．

- ・所長挨拶 京都大学防災研究所長 岡田 憲夫
- ・前回議事録の確認（資料 1）および出席者（代理）の確認（資料 2）

2．委員の紹介（資料 2）を行った．

3．議長の選出

規程第 6 条に従い，愛媛大学矢田部委員が議長に選出された．

4．今年度の全体計画（資料 3）

- ・総務間瀬から全体計画の説明があった．
- ・広報活動に関して，牛山委員にお願いした．
- ・自然災害研究協議会の方針を確認して，広報の方法を検討する．

5．第 46 回自然災害科学総合シンポジウムの開催について

- ・資料 4 - 1 および 4 - 2 に基づいて説明された．
- ・参加者：25 日は 42 名，26 日は 15 名であった（人数正確に後ほど確認する）．

6．地区部会からの報告および今年度の計画（資料 5）

- ・資料 5 - 1 ~ 資料 5 - 6 に基づいて，各地区から報告された．
- ・北海道地区の資料の 6 . の「共催」は「協力」に修正する．
- ・東北地区の会誌は 300 部作成する．今後，電子化を図る．
- ・関東地区のオープンフォーラムは参加者が 244 名と多かった．
- ・関西地区の南海地震学術シンポジウムの参加者は 75 名であった．
- ・西部地区の研究発表会は，その年の災害の数によって発表論文集が異なる．

6. データベースについて（資料6）
 - ・ 牧委員から説明があった。
 - ・ 今年は科研費が採用された。
 - ・ 来年度を申請した。
7. 平成20年度決算報告（資料7）
 - ・ 間瀬委員から説明があった。
 - ・ 関西地区の支出が多いが、各地区の消耗品を購入し、郵送した。
8. 平成21年度予算案（資料8）
 - ・ 予算が100万円増額されたので、各地区の活動費等をそれぞれ増額した。
 - ・ 12月末に予算状況を知らせてほしい、2月上旬までに伝票処理をお願いしたい、予算の余る地区と足りない地区の調整をしたいとの報告があった。
 - ・ 各地区の検収者登録のお願いをした。
9. その他
 - ・ 第45回自然災害科学総合シンポジウム「21世紀の減災を考える」パネルディスカッションを終えて（資料9）
 - 前の協議会で承認されているが、改めて読んで、修正等があれば連絡することとした。
 - ・ 平成22年度共同研究の公募要領について（資料10）
 - 西上委員から自然災害研究協議会から申請できる重点研究の説明があった。
 - 2件申請できる。
 - テーマを検討していただきたいとの報告があった。
 - 自然災害研究協議会ならではのものが良い。
 - ・ 防災科学技術研究所の写真年表について
 - 井口様より、広報資料の説明があった。
 - ・ 突発災害調査研究について
 - 藤田委員より今年の申請時に直面した問題に関連して、科研費申請プロセスの改善に向けての説明があった。
 - 次回の委員会でもう少し詳しいプロセスの提案を行うこととなった。
 - 2008年度以降の突発災害調査研究の報告書を協議会で取りまとめることとした。